

こんな本を読んできました

ゴールデンレトリバーの姿に変えられ地上に降り立った「死神」のレオ。レオの役目は、死んだ人間が地縛霊にならないよう現世での未練を断ち切ることです。レオが派遣されたホスピスには未練を持った患者さんがいます。人間嫌いなレオでしたが様々な想いを抱えた患者さん達と向き合っていくうちに人間に対して今までにはない気持ちが芽生えてきます。未練を残さないためのレオの後押しは読者にも1歩を踏み出す勇気をくれます。

みなさんは「死神」に対してどんなイメージがありますか。怖いイメージを持っている人も多いかもしれません。中身は「死神」ですが、「しゅうくりいむ」好きで、嬉しいときに思わず尻尾をぱたぱたしてしまうなど行動までもだんだん犬っぽくなっていくレオが可愛くてたまりません。犬が大好きな私は、こんな「死神」なら飼いたい！と思わずにはいられなかった心温まる物語です。

タイトル 優しい死神の飼い方

著者 知念 実希人／著

出版 光文社



呉市と関わりのある作家や事柄の 所蔵資料を紹介します。



郷土資料

タイトル ラムネだいおうとたろうちゃん

著者 中元 順一郎／文
安楽 雅志／絵

出版 下町書房

呉市出身の2人が「ラムネ」の絵本を作りました。

たろうちゃんのおにいちゃんが飲んでいて、シュワシュワしたふしぎなみもの。おにいちゃんにたずねると、「ラムネ」だとおしえてくれました。ほくものみたい！とおもい、いそいでれいぞうこへむかいます。そこにあらわれたのは、ラムネだいおう？！

君は上手にラムネを開けられる？「ぼん」とあけて、しゅわわわわ！といきおいよく飛び出す泡に手をぬらすのも懐かしい思い出ですよ。そんな記憶とともに読むのも楽しい絵本です。

細うどんにいがもち、音戸大橋にてつづくら、それから呉のお祭りの主役のやぶ！絵本には、そんな呉らしさもそこかしこに散りばめられています。ラムネをかたわらに色々な「クレ」を探してみてくださいね！